20220301 郡司

令和三年度　第二十六回　福島県立光南高等学校　卒業証書授与式　校長式辞

県南の地に光がさし、例年になく寒さ厳しい冬から暖かな春を迎えつつあるこの佳き日に、保護者の皆様の御臨席を賜るとととともに、一･二年生が教室においてライブ配信を見守る中、第二十六回の卒業証書授与式を挙行できますことは、真に喜ばしい限りであり、皆様に深く感謝いたします。

ただ今、呼名されました一七七名の生徒諸君、卒業おめでとう。君たちの新たな門出を祝福しますとともに、今日まで陰に陽に支えてこられた保護者の皆様に、心からお祝いを申し上げます。

光南高校第二十四期生の君たちは、本日限りで卒業です。四月からの新しい生活に向け、気持ちに区切りをつけ、旅立ちの決意を確かなものにするため、卒業式というこの厳粛な場において、今一度光南での日々を振り返り、入学した時の初心を思い起こしてみてください。

三年前、君たちは、時代の変わり目となる記念すべき年に、平成最後の入学式で、令和最初の一年生として光南高校に入学しました。毎日の授業は、興味関心に合わせて自分で選択し、文系や理系、体育や家庭、音楽や美術、商業や福祉など、総合学科特有の様々な専門科目を学んできました。スポーツ大会や芸術祭などの学校行事では、クラスメイトと協力し生徒主体で大いに盛り上がり、三十種類ある部活動では、仲間とともに切磋琢磨し、職場体験やボランティア活動など、地域との連携にも積極的に取り組んできました。

しかし、二年前頃から日本でも新型コロナウイルス感染症が流行し、突然、全県一斉の臨時休業となり、マスク着用や三密を避けるなど、新しい様式での生活が始まりました。オンライン授業や分散登校を行ったり、部活動の大会などが中止になったり、楽しみにしていた修学旅行も実施できず、高校生活の夢や希望が奪われ、喪失感を感じた人もいたでしょう。このようなウィズ・コロナの日々は、五・七・五の型にとらわれない俳人、種田山頭火の俳句で表現するならば、「分け入っても、分け入っても、青い山」、正に出口の見えない暗闇のように感じたことと思います。

私は、君たちと同じ年に光南高校に赴任し、教職員とともに多様な個性がコラボレーションする学校、社会の中で生き抜く力を育む学校、安心して学び続けることのできる学校の三つを経営方針に掲げ、一人一人の夢の実現に向け、教育活動に取り組んでまいりました。その中で、これまで勤務したどの学校よりも、生徒の個性の輝きと、大きく飛躍する可能性を感じました。

その予感は見事に的中し、君たちは、コロナ禍にあっても、学業だけでなく、スポーツや芸術など、様々な分野で活躍し、中には東北や全国の場でその力を発揮する者もおりました。進路実現においては、これから決まる生徒を含め、自分の夢を叶えるために懸命に努力する姿が、後輩たちの大きな励みとなり、毎日の生活では、明るく、いつで

も、先に、続ける君たちの挨拶が、私たち教職員だけでなく、地域の方々にも、元気や勇気を与えてくれました。

さて、君たちが高校時代を過ごしたここ矢吹町は、かつては火山灰に覆われた荒地でしたが、羽鳥ダムの建設と羽鳥疎水の開通、そして先人たちの血のにじむような努力により、豊かな田園地帯が拓かれました。また、二〇一一年三月に発生した東日本大震災で、途轍もない被害を受けた福島県は、皆が力を合わせて絆を深め、十一年の歳月をかけて確実に復興を成し遂げてきました。そして今、世界はウイルスの脅威や戦争の恐怖などに苛まれていますが、奇しくも、君たちが生まれた頃の二〇〇三年も、新型肺炎ＳＡＲＳコロナウイルスが流行し、イラク戦争が始まるなど激動の時代にあり、人類はそれらを乗り越えてきました。

世の中には、越えられない壁は決してありません。ましてや君たちは、光南高校での三年間の学びを通して、自分に磨きをかけ、無自覚のうちにも立派に成長し、知識や技能はもちろん、困難に負けない忍耐力を身に付けるとともに、自分とは異なる個性豊かな仲間と過ごし、多様性を受け入れてきました。飛鳥時代の政治家で君たちもよく知る聖徳太子は、社会の秩序を保つため日本で初めて制定した憲法の第一条に、「和を以って貴しと為す」を掲げました。誰もが生きやすい社会には、戦争のように争い憎しみ合うのではなく、互いに認め合いながら協力し、平和を尊重することが大切なのです。

今、日本では、困難な課題に立ち向かう若い力や、更なる復興を進める志ある若者が求められています。先日閉幕した北京オリンピックでも、フィギュアスケートの鍵山選手やスノーボードの村瀬選手、スキージャンプの小林選手など、これからのスポーツ界を背負って立つ若手選手に注目が集まりました。是非、君たちには、立派な大人として、与えられる側から与える側へと少しずつ変わり、光南高校の教育目標である「個性を生かして社会に貢献する人材」となり、人々に夢や希望をもたらす、社会の担い手になってほしいと切に願っています。

結びに、保護者の皆様、本日の喜びは如何ばかりかと拝察いたします。皆様にとってかけがえのないお子様の教育に、私たち教職員を信じてご協力いただき、本当にありがとうございました。

そして、卒業生諸君、君たちの卒業は、無論、君たち一人一人の努力の賜物ではありますが、同時に温かい愛情を持って励まし、支えてこられた御家族や多くの人のお陰でもあります。この旅立ちの門出において、お世話になった方々に感謝の気持ちを伝え、しっかりとけじめをつけて、光南高校のシンボルである神の鳥・朱雀のごとく、新しい世界へと大きく羽ばたいて行ってください。

無限の可能性を持つ卒業生全員のこれからの活躍に、心からエールを送ります。

令和四年三月一日

福島県立光南高等学校長　郡司　完